

# 【乳汁検査まとめ】

## はじめに

2019年から2021までの3年間、上半期・下半期に分けて乳汁検査の報告をしています。それぞれの報告は年ごとですので、今回はG(-)菌(※1)の感受性薬剤割合の推移を中心に報告したいと思います。

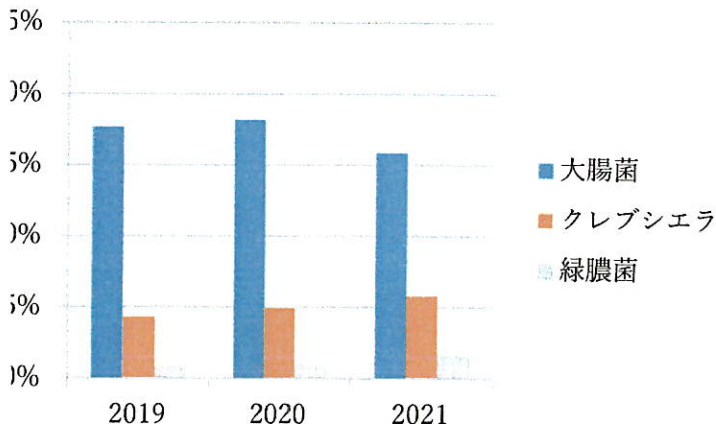
※1 G(-)菌：グラム陰性菌には大腸菌・大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌が含まれます。

## 略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル 10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC注	OTC軟膏

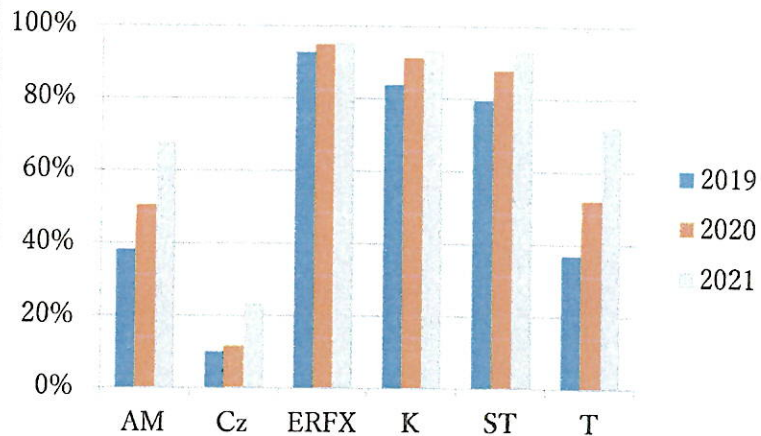
## G(-)菌検出数推移

菌が検出された検体におけるG(-)菌の割合をグラフ1に示します。大腸菌が2019年から順に17.7%、18.2%、15.9%となりました。クレブシエラは2019年から順に4.3%、4.9%、5.8%、緑膿菌は2019年から順に0.8%、0.9%、1.6%という結果となりました。検出数は検査数の増加に伴い大腸菌、クレブシエラ、緑膿菌全てにおいて増加していますが、発生割合はおおよそ一定です。



グラフ1 G(-)菌割合

## G(-)菌感受性割合の推移



グラフ3 大腸菌群感受性割合の推移

	2019年	2020年	2021年
AM	38.1%	50.3%	67.6%
Cz	10.2%	11.7%	23.4%
ERFX	92.8%	94.9%	95.5%
K	83.8%	91.1%	93.4%
ST	79.6%	87.7%	93.1%
T	37.0%	51.9%	72.4%

表1 大腸菌群感受性割合の推移

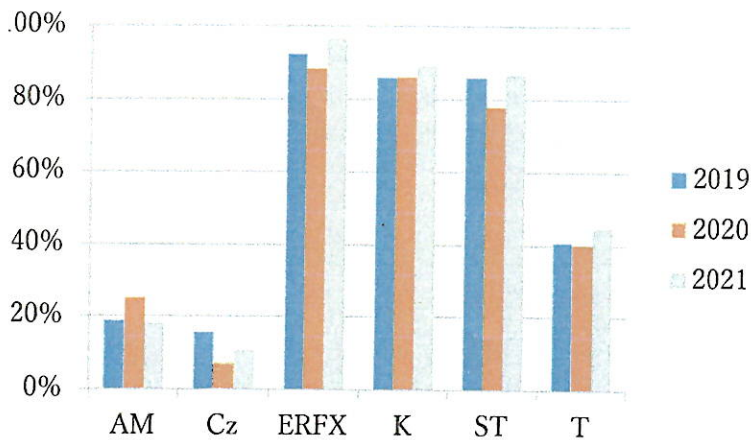
グラフ3、表1に大腸菌群感受性割合の推移を示しました。感受性割合の高いERFX、K、STはいずれも高い割合を示しました。Tは近年、大腸菌性乳房炎に対して抵抗性があり、使用頻度が減少していたために感受性割合が増加していると考えます。



Total Herd Management Service

の乳房炎を疑った場合にTを選択するには感受性割合が低いと考えます。次回はG(+)菌について紹介する予定です。

富田大祐



グラフ4 クレブシエラ感受性割合の推移

	2019年	2020年	2021年
AM	18.8%	24.7%	18.2%
Cz	15.6%	7.1%	10.7%
ERFX	92.2%	88.2%	96.7%
K	85.9%	85.9%	89.3%
ST	85.9%	77.6%	86.8%
T	40.6%	40.0%	44.6%

表2 クレブシエラ感受性割合の推移

グラフ4、表2にクレブシエラ感受性割合の推移を示しました。ERFX、K、STは大腸菌と比較すると若干感受性割合が劣るものの、大腸菌同様に高い感受性割合を示しました。Tに関しては大腸菌で見られた感受性割合の上昇は見られませんでした。

緑膿菌に関しては発生数に大きな変動はなく、ERFXのみ感受性があるか、感受性薬剤なしのどちらかです。2021年に弱冠発生数が増えたのは、特定農場で緑膿菌が問題となり、検査数が増加したためです。

## 最後に

大腸菌に関してはTの感受性割合の増加がみられましたが、クレブシエラに関しては変動がみられませんでした。このことから、大腸菌やクレブシエラ



Total Herd Management Service